

全国高校英語スピーチ大会

中平君(宮崎西3年)が優勝



宮崎市・宮崎西高普通科3年の中平佳孝君(18)が、第7回全国高校英語スピーチコンテスト(全国英語教育研究団体連合会主催)で、優勝に当たる文部科学大臣賞に輝いた。本県代表が同賞を受賞するのは初めて。

全国9ブロックの代表18人で競った同コンテストは9日、東京であり、九州ブロック代表の中平君は「What's Important Is Who You Are」と題してスピーチした。

2012年8月から13年6月まで約1年、アメリカに留学し、自身が体験した人種差別について考察。見た目を気にするのではなく

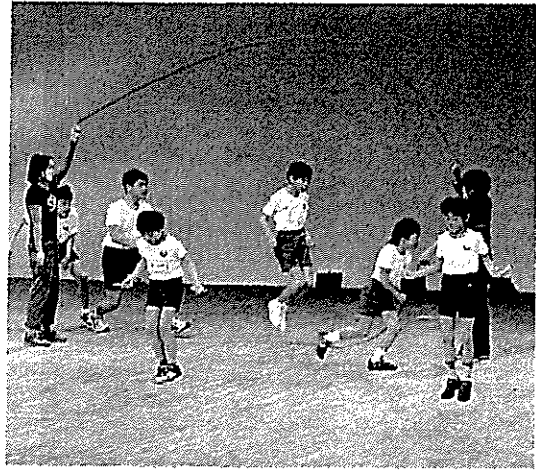
本県初「将来は生かす仕事に」

中身を交えようと思ひ、懸命に英語を勉強して積極的に話し掛けることで周囲に溶け込めたことを気持ちを込めて発表した」という。中平君は昨年9月にあった県大会(第57回県高校英語弁論大会)に向け、同8月に原稿を仕上げ、練習を開始。県大会に優勝すると、同11月にあった九州ブロック大会「大分市」でも1位を獲得。その後も毎日、学校と家で練習を繰り返しながら、数度原稿を直しして本番に臨んだ。

指導した英語担当の井上久慈教諭(46)は「教えることとは何もなかった。ネイティブと変わらない発音ができるのに加え、表現力が他を上回っていたと思う」とたたえる。

中平君は「高いレベルの中で優勝できて光栄。大学に進学しても好きな英語をもっと勉強し、将来は英語を生かした仕事に就きたい」と熱く話した。

全国英語スピーチコンテストで文部科学大臣賞を受賞した宮崎西高の中平佳孝君



歌やダンス、運動など元気いっぱいステージを繰り広げた「なかよし学習発表会」

支援学級の児童ら発表会

宮崎市の特別支援学級で学習発表会(市学校教育研究ふ児童・生徒の「なかよし学習発表会」特別支援教育部会主催)

てきた歌や合奏、音楽劇などを発表し、観衆を楽しませた。

宮崎西小、生目台東小、生目台西小の児童30人は合同で「オリンピック・ドリーム」と題して運動を披露。ステージ全体を使ってハードル走、一輪車、縄跳びなどを元気い

な歓声と拍手で包まれた。赤江中が披露した合奏でキーボードとハンドベルを担当した松田輝さん(14)は3年1組を一生懸命に練習した。間違わず弾けたし、みんなそろって、うれしかった」と笑顔で話した。

プロの拳すじい

ボクシング部で交流練習

日章学園中高

合宿で本県入りしているプロボクサー赤穂晃さん(27)と金子大樹さん(25)が11日、宮崎市・日章学園中高を訪れ、ボクシング部(長瀬秀昭監督、中身を交えようと思ひ、懸命に英語を勉強して積極的に話し掛けることで周囲に溶け込めたことを気持ちを込めて発表した」という。中平君は昨年9月にあった県大会(第57回県高校英語弁論大会)に向け、同8月に原稿を仕上げ、練習を開始。県大会に優勝すると、同11月にあった九州ブロック大会「大分市」でも1位を獲得。その後も毎日、学校と家で練習を繰り返しながら、数度原稿を直しして本番に臨んだ。

指導した英語担当の井上久慈教諭(46)は「教えることとは何もなかった。ネイティブと変わらない発音ができるのに加え、表現力が他を上回っていたと思う」とたたえる。

中平君は「高いレベルの中で優勝できて光栄。大学に進学しても好きな英語をもっと勉強し、将来は英語を生かした仕事に就きたい」と熱く話した。

赤穂さんがリングに上がり、部員代表2人と3分3ラウンドのスパarringがスタート。部員はプロ相手に積極的にパンチを繰り出し、リング下で見ていた金子さんから「なかなか良かったよ」と励まされていた。

高校1年の井上颯君(16)は「2分3ラウンドになれていたので、後半はきつかった。攻撃のかわし方などとても勉強になった」と話している。



参加者にDVの実態を説明する財津さん(右)

赤穂晃
部員



受診前に症状をお
【宮崎
小 小野上
内循環 平
内小外 宮
内 学園台
外 内胃 藤
脳外整 川